

科目名	技術科学表現演習 I Technical Japanese Expression I			担当教員	山内庄司		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	12133912	単位区分	履修単位
学習目標	技術者に求められる論理的／客観的な表現力を実践的演習により学ぶ。 主な学習項目は線図の描き方，理工系の文章表現法の基礎（言葉づかい，漢字／かな表記，送りがな，常用漢字，外来語の表記法など），技術表現道具としてのワープロ／表計算ソフトの使い方などである。						
進め方	演習書とプリントを用いた演習を中心とし，要点の解説を交えることで学生の理解度を高める授業を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 導入，グラフの描き方1（3） 2. 初級演習1（4） 横書き，段落，誤字，句読点，送りがな， 同訓・同音語句 ----- [前期中間試験]（1）			・技術系のグラフを正しく描くことができる。 D-1: 日本語の文章と口頭によるプレゼンテーションの力を身につける。			
	* 試験答案の返却および解説(1) 3. 初級演習2（3） 形式名詞，補助動詞，口語文章体， 禁則処理，主語の省略，中点， 括弧・コロン，複合問題 4. 報告書作成演習1（1） 5. 中級演習1（2） 接続詞，接文語句 ----- 前期末試験			・科学技術分野では，論理的で客観的な文章表現が必要であることを理解する。 D-1: 日本語の文章と口頭によるプレゼンテーションの力を身につける。			
	* 試験答案の返却および解説(1) 6. 中級演習2（6） 常用漢字表，氏名の表記，カタカナ単語 長音符号，学術用語，副詞の表記， 音読み副詞，訓読み副詞，英文チェック ----- [後期中間試験]（1）			・論理的客観的な文章表現のために，留意すべきことを理解する。 D-1: 日本語の文章と口頭によるプレゼンテーションの力を身につける。			
	* 試験答案の返却および解説(1) 7. 中級演習3（2） 当て字，漢数字，数字を含む慣用句， 修飾語と被修飾語，読点による誤読回避， 複合問題 8. 報告書作成演習2（1） 9. 文章作成の知的テクニック（3） 接続詞，文末の表現 ----- 後期末試験			・科学技術分野の論理的で客観的な文章を，基礎的レベルで書くことができる。 ・より良い表現方法を検討することができる。 D-1: 日本語の文章と口頭によるプレゼンテーションの力を身につける。			
	* 試験答案の返却および解説(1)						
	評価方法	授業時間内に実施する演習への取り組み（向上心と提出物）および定期試験結果を総合して評価する。両者の比率は各四半期ごとに演習50%，定期試験50%とする。					
履修要件	特になし。						
関連科目	技術科学表現演習I（3年） → 技術科学表現演習II（4年） → 卒業研究（5年） ↳創造機械電子基礎実験実習III（3年） ↳メカトロニクスシステム設計（4年）						
教材	教科書：塚本真也，「知的な科学・技術文章の徹底演習」，コロナ社 ISBN978-4-339-07784-1						
備考	年度内追認試験は実施できない。 授業を受けるに当たって，特別の準備は必要ない。常日頃より，分かりやすく正確な文章を書く心がけを持つことが大切である。						